

平成22年度 学校評価【自己評価】

米子北高等学校

担当分掌	年度当初		今年度の重点目標	
	現 状	目 標	経過・達成状況	評価結果
総務部	(1) 生徒募集について ① 米子北高の良い点のアピールが不十分 ② パンフレットに載せる写真が少ない ③ 募集アドバイザーの積極的な活用 (2) 教育振興会について ④ 役員のなり手が少ない ⑤ 活動への積極的な参加が少ない	① 生徒募集に関する計画立案と中学校との関係強化 コースの特徴や取り組み、進路指導方針を 分かりやすく説明する。 ② 教育振興会との連携強化 各行事への積極的な参加を促す。 (参加者数等の記録をしっかり残す。)	① 23年度の新入生が200名を超えたことを見ると、目標に向かって 改善しているとみていい。 ② 各行事の参加数が相変わらず少ない。	B ① 一層のアピール宣伝活動が大切。中学校関係者との普段から の人間関係強化をはかっていく努力が望まれる。 ② 保護者との関係強化をはかることが解決策と考える。保護者が 教育振興会活動に積極的に取り組めるような関係改善が望まれ る。
教務部	(1) 新学習指導要領をふまえた教育課程の審議・検討 (2) 基礎学力の充実を図る (3) 朝読書の推進を図る	① 学習時間調査。授業力アップの為の方策(授業アンケート等)。 ② コースの特徴を明確化するための新課程カリキュラムの検討。 ③ 評定の再考。 ④ 読書の推進。	① 学習時間調査は担任サイドでは実施されている。 ② 新課程カリキュラムについては、研修会等に参加した程度であ る。 ③ 検討せず ④ 積極的に推進していただいた。	C まずは、今年急遽実施したカリキュラムの再編を新学習指導要 領を基に、早急に実施しなければならない。その上で授業アン ケート、研究授業などによる授業力の向上の為の方策を実施した い。 評定については、検討を進めたい。
進路指導部	(1) 自らの将来像に対する意識が浅く、職業や学問分野に関する 知識が乏しい。 (2) 基礎学力不足のために自分の進路に自信が持てない生徒に 対する対策が十分ではない。 (3) 国公立大学を中心とした難関大学への合格が少ない。	① 生徒自らの進路意識が確立するための施策を行う。 ② 生徒が希望の進路を勝ち取るための力の育成を図る。 ③ 進路決定のためのサポート体制の強化を図る。 3年間を通じた進路指導計画。生徒個人カードの作成・活用。 就職セミナー・進学セミナーの充実。 進路講演会(生徒・保護者対象)。 基礎力診断テスト・スタディーサポートの実施・活用。	① 3年間を見据えた形のLHR計画を立て直して実施した。 ② 基礎学力をつけるため、春休み、夏休みに自主学習を行い、その 成果を見るための基礎力診断テスト、スタディーサポートを実施した。また、 表現力の育成のため、3年のみであったが、小論添削、小論文テストを実 施した。 ③ 3年生に、進路カードを作成し、担任と指導部の面接、懇談状況の やりとりができた。 進路講演会は、年度当初のみ行った。	B ① 進路LHRの回数を増やすことや就職・進学セミナーとの関連づけ が必要。 ② 継続して学力をアップするためには各学期始めの3回実施した 方がよいのではないか。また、作文、小論文対策は就職希望、進学 希望にかかわらずもっと早い時期から取り組む必要がある。 ③ 進路カードは1年次から作成し、3年間活用できるものが良い。 進路講演会についてはもう少しタイムリーな形で実施した方がよ い。そして、保護者がもっと参加できる日時、形態を考える必要が ある。
生徒指導部	(1) 新しい制服になって3年目、地域の方にも認知されつつある が、少数だが着こなし方が悪く(特に、丈の短いスカート)、学校の 評価を落としている。 (2) 外部・内部の苦情・連絡に対応が遅れがちである。	① 挨拶や服装指導等の態度教育を通して、規範意識を高め、 モラルの向上を図る。 ② 迅速な生徒指導	昨年度と同様に門前やクラスに入り、挨拶や服装指導に当たった。だ いぶ良くなってきたが、目が行き届かない所での違反がある。まだま だ指導が徹底できていない。迅速な生徒指導を常に心掛けやってき た。	B 現在の状況からゼロ・トランスの導入をするには至らないと思 う。担当教員の若干の増員ややり方の工夫などでより一層の指導 の徹底が必要である。
生徒会部	(1) 近年、生徒会に興味を持ち、積極的に参加したいという生徒は 減少傾向にある。また、執行部の活動も教員主導で生徒達が積 極的に行事を企画立案に参加し、実施まで責任をもって活動する ことが出来ていない。 (2) 生徒の減少に伴い、部活動の部員がなかなか集まらない傾向 にある。	① 学校祭・球技大会等への生徒の主体的な参加 ② 部活動・ボランティア活動への積極的な参加 部活動・ボランティア活動を通して社会性を育む。	① 学校祭・球技大会については、生徒会長中心に積極的な取り組み が出来た。 ② 部活動の入部率は約75%であり、入部率は高い。 ③ ボランティア活動は、学校周辺の清掃活動を実施した、学級を中心 に百数十名の参加があり、意識の高さがうかがえる。	A 次年度は特にボランティア活動に力を入れたい。定期的な学校周 辺の清掃活動を行う事と、実施時期・内容を地域と連携して再考 したい。
情報システム部	(1) 当分掌の作業は、様々な部署・分掌の下請作業的な側面があ り、責任や作業分担といった面での割り振りに曖昧な部分があ る。 (2) インターネットの本校Webページ(ホームページ)による情報発 信がタイムリーでなく活用が十分でない。	① 各業務のマニュアル整備。 ② 作業確認の徹底と臨機応変な対応。 調査集計等への協力。ホームページの迅速な更新。	① 成績処理・入試処理の作業マニュアルは、通常の作業を行うため には特に問題がない状態まで整備できた。しかし、何らかのデータ異 常が発生した場合に対処を行う場合のマニュアルは、全てができてい る状態ではない。 ② 成績処理、入試処理業務において、臨機応変な対応はできたと思 えている。今後もしっかりと対応できるような体制をとっていきたい。 ホームページの更新に対しては、一致協力して迅速な更新作業に当 たることを心がけて、他の業務と重なる場合もあり全てが迅速に更新 できているわけではないが、しっかりと対応できたと考えている。	B ① データ異常時の対処法を少しずつでも整備していく必要があ る。 ② ホームページの更新システムが今年度に変更となったため、新 しいシステムの操作に早く慣れるように努める必要がある。

平成22年度 学校評価【自己評価】

米子北高等学校

中期目標	今年度の重点目標
1. 自ら主体的に学習に取り組む 2. 規律の内面化と外面化 3. ボランティア精神の喚起	・教職員研修の充実。 ・学校評価制度を活用した組織力の向上。 ・進路指導システムの確立。 ・明るく活力のある職場風土づくり。

担当 分掌	年度当初		評価結果	
	現 状	目 標	経過・達成状況	評価 改善策・次年度への課題
環境保健部	(1) 生徒の健康(心身)の保持増進と安全管理上の意識の向上 ① 保健室利用について：安易な利用が目立って多い。再利用者が多い。 ② 防災について：防災や救命意識に個人差がある。 ③ 部活動等について：顧問の安全管理意識に個人差がある。 (2) 減ゴミ対策・用具類の管理に対する意識の向上 ① ゴミ袋・トイレトペーパーの使用量が多い。 ② 掃除用具の管理が徹底していない。 ③ リサイクル意識に個人差がある。	① 校舎内外の環境美化の推進。 ② 生徒の健康(心身)の保持増進と保健指導の充実。 ③ 環境保健に対する意識の向上と安全管理における活動実施計画の充実。 ④ 学校事務部との連携の強化。	防災訓練 … 春(5/25)と秋(10/26)の2回、学校全体で実施した。救命講習会 … 10月28日～11月12日の間に第二学年生徒141名が「普通救命講習Ⅰ」を3回実施した。並行して本校職員による「普通救命講習Ⅰ」を実施し23名が受講した。インフルエンザの流行に備え、マスクの備蓄、手洗い場のハンドソープ・昇降の手指消毒用アルコールを設置し予防に努めた。	B 引き続き、安全教育意識の向上を図る。(生徒・職員)救命講習については、職員の講習会参加を充実させ、受講者の増加を図る。(学校全体での取り組み…全員参加)
人権教育部	(1) 生徒と教員の間で明るく、元気な挨拶が交わされ、学校が明るい雰囲気になってきている。一人ひとりの生徒が自分の学力の目標を達成する援助、学習内容を定着させる援助をしている。 (2) ① 校内研修をテスト期間中に実施しているが、今一つ参加者が少ない。	① 生徒一人ひとりを大切に、自尊感情を育てる教育を推進する。 ② 教科指導・生徒指導・学級経営などすべての教育活動全体を通じて人権教育を推進する。 ③ 教職員研修の充実に努め、人権意識の高揚を図る。	全教員に生徒一人ひとりを大切にする具体的実践項目(学級経営、授業指導、生徒指導)をいかに実践したかの評価・反省を提出してもらった。少しでも意識して実践できたのではないかと。	B 人権教育LHRを生徒の実態に即した、身近なことから興味関心を持たせるものにする。生徒の自主性を重視する授業の工夫をすること。そのために、教員研修をより充実したものにする。
看護部	(1) 5年間という期間にわたって、目的意識や学習意欲の継続が難しい。 (2) 基礎学力や看護の基礎的知識・技術の習得が十分でない。 (3) 日常生活体験に乏しく、コミュニケーションがとれず、臨床実習でつまづく生徒がいる。	① 基礎学力の充実強化。 ② モチベーションを継続させる方策。社会体験の機会、講演等。 ③ 国家試験全員合格。	① 各学年早朝の時間を利用し、小テストを実施した。また看護科全国模試をし、全国の看護科との比較をした。看護技術に関しては放課後の時間を利用し、グループでチェックリストを利用し練習した。 ② ほとんどの生徒が看護に興味を持ち、学習しているが、ごく一部の生徒が目標を見失い、進路変更する。 ③ 残念ながら、全員合格は達成出来なかった。	B ① 基礎学力については模擬試験の結果からみても全国上位者と下位者とに分かれる。国家試験合格という目的意識をしっかり持たせることが必要である。基礎看護技術習得に関しては各学年の到達度をわかりやすくする。 ② 社会体験をするためにボランティア参加の機会を増やす。卒業生などに病院について講演を依頼する。
事務部	(1) 経費等の節減に努める (2) 迅速な対応(窓口・電話等)に努める	① 経費等の節減に努める。 ② 一致協力し合った業務遂行。とくに電話の取り次ぎ・窓口対応等、誰でも出来ることは全員で対応する。	経費節減については、出来る事から始めようということで、光熱費節減を掲げ努力してきた。部内の業務についても、出来るだけ誰でも対応出来るように心掛けた。	B 経費節減については、口頭での呼び掛け以外にも、ハード面(エコ備品購入等)の充実も図っていかねばならないと思っている。部内業務を一致協力して行う事も、多忙な日々の業務に追われ、なかなか研修等も実施出来ず、浸透していないので、次年度は是非良い方向に進めて行きたい。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し